

別紙様式 1

令和 5 年度天応学園研究推進計画

校番 () (呉市立天応学園)

校長名 坂口 守

1 学園教育目標

かかわる つながる よく生きる

2 目指す児童生徒像

- 「多様な他者と対話しながら学ぶ子供」
- 「自ら課題を見つけ、より良い未来へ向けて探究する子供」
- 「自他の幸せを考え、自ら貢献しようとする子供」

3 育成を目指す資質・能力（具体の姿）

資質・能力 設定した	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	自主性、主体性
後期	<u>構造化され生きて働く概念的な知識や、自在に活用できる技能が身に付いている。</u>	(実社会・実生活の中から) 問いを見いだし、効率的・効果的に分析して、 <u>根拠を明らかにしながら、論理的に表現することができる。</u>	探究的な学習の過程において、実社会・実生活の課題を <u>自分のこととして考え、協働的に解決に向かい、社会に貢献しようとしている。</u>
中期	<u>新しく学習した言葉や技能を正しく理解し活用することが身に付いている。</u>	(実社会・実生活の中から) 問いを見いだし、効率的・効果的に分析して、 <u>根拠を明らかにしながら、順序立てて表現することができる。</u>	探究的な学習の過程において、実社会・実生活の問題を解決するために、(自分の意思で) <u>目標を持ち、友達と協力しながら解決に向かい、社会とつながろうとしている。</u>
前期	<u>新しく学習した言葉や技能を正しく理解している。</u>	身のまわりから問題を見つけ、集めた情報から考え、 <u>理由を明らかにしながら、相手に伝えることができる。</u>	自分の生活を見直し、自分の特徴やよさを知るとともに、 <u>ちがう意見や友達の考えを大切にしながら、身のまわりのことと関わろうとしている。</u>

4 研究主題等

(1) 研究主題

自他の知をつなげ、粘り強く学ぶ児童生徒の育成
～対話・探究・貢献を軸とした授業づくりを通して～

(2) 設定理由（校区の児童生徒の課題分析等）

本校は一昨年度より、広島県教育委員会から「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」の指定を受け、探究的な学習の充実に向けて、PBL（プロジェクト型学習）の考え方を参考にした生活科及び総合的な学習の時間の単元開発や単元ルーブリックの活用に関

する研究を行い、その成果を検証・普及する取組を進めている。指定2年目の昨年度は、目指す児童生徒像を「『鍛える 想う 求める』子供」と設定し、指定1年目から見えた課題を解決するために、学年間の系統性を再整理し、全体計画及び年間指導計画、そしてカリキュラムマップにそれらを位置づけるといったカリキュラム・マネジメントを進めた。また、1枚ポートフォリオを活用した学びの蓄積や、ICTを活用した振り返りの充実、外部人材の効果的な活用に取り組んだ。そして、小中合同での理論研修や授業研究を行い、問いの階層の整理やデータの活用、単元ルーブリックの活用等について研究を進めてきている。

こうした取組を通じて、成果とともに次の3点の課題が明らかになった。①学力調査等の結果分析から、「データを活用したり複数資料を読み取ったりして自分の考えを表現する力」について、改善の傾向は見られるものの、未だ道半ばであり、継続した取組が求められること。②探究的な学習に関する意識調査では、「表現力」に関して「自分の考えとその理由を明らかにして相手に分かりやすく伝わるように発表を工夫する意識」に課題があり、多様な表現方法及び相手（受け手）からのフィードバックを充実させる必要があること。③指定事業終了後を見据え、探究的に学習における持続可能な体制づくりのために、単元の方向性や展開に関する研修の充実や校内の指導体制の再構築を進める必要があることである。

以上のことから、学校教育目標と研究主題は昨年度からの継続とし、目指す子供像を「多様な他者と対話しながら学ぶ子供（多様性の理解、メタ認知）」「自ら課題を見つけ、より良い未来へ向けて探究する子供（課題発見力、主体性、批判的思考力）」「自他の幸せを考え、自ら貢献しようとする子供（表現力、創造性、協働する力）」と新たに設定する。具体的には「より良い自分となれるよう自らを鍛え続け、対話を通じて自他の良さを見つける。他者と協働的に学びながら時や場の変化に相応した具体的な行動をとる。『なぜ』『どうして』という問いを持って学びを深めていく」児童生徒の育成を目指していく。

なお、授業づくりについては、義務教育学校としての強みを生かしつつ、呉の学校教育の方向性も鑑み、子供の問いを生かした「考える授業づくり」を行うため、「問いを引き出す指導の工夫」や「振り返りの充実」、「児童生徒が表出する問いの質の向上」、「本質的な問いによる授業改善の推進」、「系統的な防災教育の充実」、「複数資料（説明文やデータ活用等）の読み取りや活用」等を進めていく。

(3) 研究仮説

各教科及び総合的な学習の時間において、「対話・探究・貢献」をキーワードとした授業改善を行うことにより、自他の知をつなげ、粘り強く学ぶ生徒を育成することができるだろう。

5 研究内容

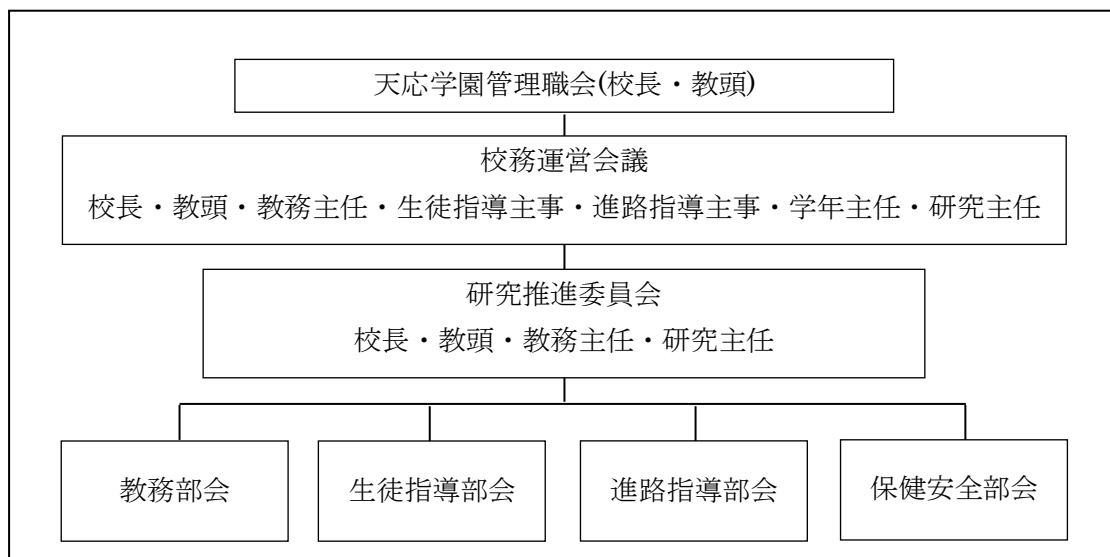
- 各教科における課題発見・解決学習およびデータ活用力の育成に関する実践・検証
- 生活科および総合的な学習の時間におけるプロジェクト型学習の考え方に基づく探究的な学習の実践・検証
- 教務部会における研究内容
 - ①授業改善・指導力向上に向けた取組（補充学習の充実【パワーアップタイム、天中タイム等】、各種学力テストの比較・分析、課題発見・解決学習の計画と実践、家庭学習の充実）
 - ②読書活動の推進、図書メディアセンターの活用
 - ③データ活用に関する取組（統計グラフコンクールへの出品）
- 進路指導部会における研究内容
 - ①異学年交流や地域とのつながりを通じた自尊感情の育成（学園クリーン作戦、後期課程生徒による前期課程児童への読み聞かせ）
 - ②あいさつ運動や道徳の授業等を通じて自己表現の場の充実
- 生徒指導部会・保健安全部会における研究内容
 - ①児童生徒の自治による「いじめ撲滅運動」（学園あいさつ運動）
 - ②家族とのつながりを通じた自尊感情の育成
 - ③基本的生活習慣の定着（早寝・早起き・メディアコントロール）

6 検証について

検証の視点	方法	検証の指標	現状値	達成目標
① 探究的な学習となる授業をつくることができたか。	広島県児童生徒学習意識等調査	探究的な学習に係る質問項目に肯定的回答の割合（4月，1月）	92.1 %	4月結果を上回る
② 児童生徒の学力は向上したか。	① 全国学力・学習状況調査（国語，算数・数学，英語） ② 標準学力調査	全国平均との差（① 4月，② 1月）	① 国：+2.0 数：-3.4 ② 国：+3.9 数：+6.9	全国平均との差 ① +1.5 ② +2.0
③ 児童生徒が安心感を持って学校生活を送ることができているか。	児童生徒アンケートまたは学校評価アンケート	児童生徒の肯定的回答の割合（7月，11月）	92.5 %	7月結果を上回る

7 推進体制等

(1) 推進組織



8 推進計画

日程	内容
4月 3日 (月)	校務運営会議 (今年度の研究推進の方向性を確認)
4月 5日 (水)	総会 (本校の研究方針の確認) 校内研修会① (総合的な学習の時間の計画) ・分掌部会①
5月10日 (水)	校内研修会② (理論研修) ・分掌部会②
6月14日 (水)	校内研修会③ (理論研修) ・分掌部会③
7月28日 (金)	研究推進委員会① (1学期のまとめ, 2学期に向けた確認)
8月 3日 (月)	校内研修会④ (理論研修) ・分掌部会④
8月22日 (火)	学園授業研究 指導案検討 (生活科) 【兼 校内研修会⑤】
9月 6日 (水)	学園授業研究 指導案検討 (総合的な学習の時間) 【兼 校内研修会⑥】
9月27日 (水)	学園授業研究 (生活科) 【兼 校内研修会⑦】
10月25日 (水)	学園授業研究 (総合的な学習の時間) 【兼 校内研修会⑧】
12月13日 (水)	研究推進委員会② (2学期のまとめ, 3学期に向けた確認)
2月21日 (水)	校内研修会⑨ (次年度に向けて) ・分掌部会⑤ (今年度のまとめ)
3月12日 (火)	研究推進委員会③ (今年度のまとめ・来年度の計画)

※別途, 授業研究の実践や校内研修を行うこととする。

9 その他

※ 研究構想図, カリキュラムマップを添付する。